

子どもたちの育ちと学びを支援するPTA活動

犬山市立楽田小学校PTA

1 はじめに

本校は犬山市の南部に位置し、緑豊かな東部丘陵と田園風景が広がる豊かな自然の中にある。また、校区には尾張二の宮で名高い「大縣神社」や県下第2位の大きさを誇る「青塚古墳」があり、古くからの歴史を感じる地域でもある。

本校は、明治5年に義校として開設され、明治41年には楽田城址である現在の地に移設された長い歴史を有する学校である。楽田城址として残されている史跡「城山」には、

休日になると郷土の歴史愛好家が訪れ、戦国の世に思いをはせながらカメラに収める姿も見られる。校庭には「景観重要樹木」にも選ばれた、樹齢150年を誇る「梅檀の樹」があり、本校のシンボルツリーとして子どもたちの活動を見守っている。

地域に根ざした学校づくりを進める本校では、地域と共に子どもを育てることを具現化するために、9月に「楽田地区運動文化祭」を実施している。学校・保護者・地域が一体となって準備・運営を行い、子どもたちの学習の場として、地域の多くの方々との交流の場として定着してきている。

本年度の学校規模は、児童数740名、学級数26学級、PTA会員数563世帯で、ペルーや中国などの外国籍児童も多数在籍している大規模校となっている。校訓「強く 明るく 正しく」のもと、「心身ともに健康で、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性と確かな学力を身につけた“城山っ子”の育成」をめざし、日々の教育活動を進めている。

PTA会員である保護者の状況については、児童の父母・祖父母が本校の卒業生である家庭が以前は多かったが、新興住宅の増加や核家族化の進展などで、社会全体の傾向と同様に、地域と保護者のかかわり、保護者相互のかかわり、ひいては家族としての親子のかかわりにも変化が見られ、地域の中での絆やつながりが感じにくい状況がある。

そうした状況をふまえ、今年度のPTA活動は、「学校への理解と協力を進めながら、学校の教育活動を支援し、子どもの成長を促す」ことをねらいとして実践に取り組みたいと考えた。

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

楽田小学校PTAでは、以前から保護者と教師が手を携えて、子どもの成長を支えるためいろいろな取り組みを実践してきている。実践活動の報告でも述べる活動を通して学校教育への理解と協力を進め、教育活動に参加してもらい子どもの成長を支えていきたいと

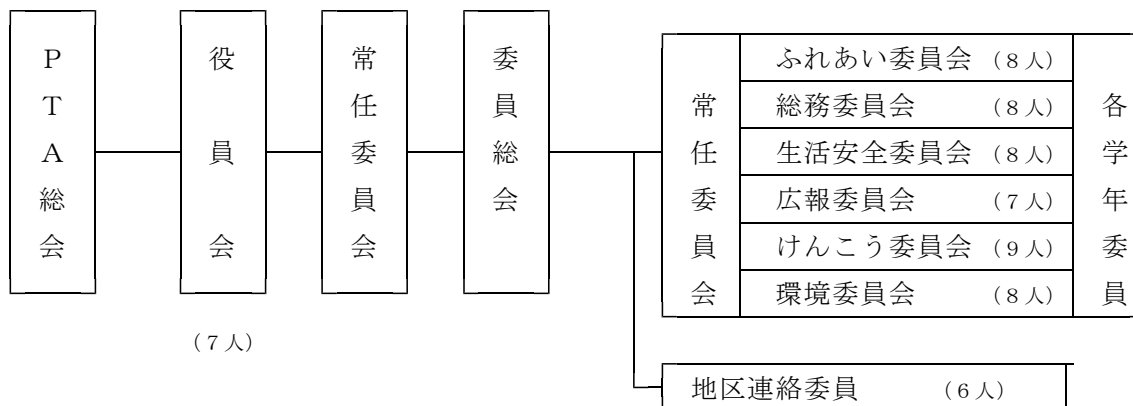


【梅檀の樹の下で学習する子どもたち】

考え、研究のテーマを「子どもたちの育ちと学びを支援するPTA活動」として取り組むことにした。

(2) PTAの組織と各委員会の活動

【PTA活動組織図】



ア ふれあい委員会の活動

- ・読み聞かせボランティアの運営手伝い。
- ・図書館の環境整備。給食エプロン補修。

イ 総務委員会の活動

- ・ベルマーク、インクカートリッジの回収・仕分け・集計・購入品発注。

ウ 生活安全委員会の活動

- ・青色防犯パトロール（児童の下校時の見守り）
- ・通学路の安全点検の実施とスクールガードとの連携。

エ 広報委員会の活動

- ・PTA新聞（しろやま）を年3回発行。

オ けんこう委員会の活動

- ・学校保健委員会への参加。
- ・PTAカルチャー講座の開催。夏休みのプール見守り当番。

カ 環境委員会の活動

- ・PTA花壇（しろやま花壇）の環境整備。学校での飼育動物のお世話。

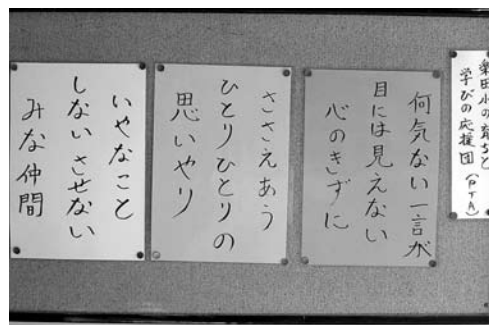
キ 地区連絡委員の活動

- ・地区の軒数が7軒以下の時は、常任委員会には属さず地域との連絡委員として活動。

3 実践活動の概要

(1) 学校支援応援団活動

「子どもの育ちと学びの応援団」として、標語や応援する言葉を学校内に掲示する活動に取り組んでいる。子どもたちが学校生活の中で学習について悩んだり、友だちや家庭の事など様々な心の壁にぶつかり前を向けないときも立ち



止まらず、一步前に進もうと思ってくれる標語や言葉で応援できたらと思い活動している。

校内の2箇所で掲示し、保護者の方々にも授業参観等で来校したときに見ていただくようにしている。今後も身近な家族や友だちに先生、相手に対する思いやりの心が湧いてくるような掲示を心がけていきたい。

(2) トイレピカピカ大作戦

昨年度より実施しているトイレの清掃。年3回、保護者と児童に呼びかけて休日に学校に来て校舎内のトイレを清掃している。楽田小学校の校舎は大変古く、建ってから40年以上のものもあり、残念ながら長年の汚れが付着し時には臭うこともある。そんなトイレを、サンドペーパーなどを活用し、親子でピカピカにしている。親子だけではなく三世代での参加者もあり、活動後の



【トイレ清掃の様子】

反省では「子どもたち・孫がお世話になっている学校への感謝の気持ちを表わすことができ良かった」「子どもは普段家ではトイレの掃除をしないけど、一緒に活動することができ良かった。この活動をもっとたくさんの親や子どもたちに広め、毎日使用する場所をきれいにできたらと思います」という言葉をもらうことができた。

(3) スマイルエコキャップ運動

今年度から始めた活動としてスマイルエコキャップ運動がある。ペットボトルのキャップを登校時に集める活動で、あいさつ運動も兼ねているので「スマイル」という名称を付けた。月に1回の活動で役員と委員が、「おはよう」「ありがとうね」と声かけをしながら、大きな袋を持って学校の昇降口で、キャップを受け取る。9月から始めたところ、予想を超える9袋も集まり、集



【9月に行ったときの様子】

めた役員と委員も意識の高さに驚くと共に感謝の気持ちでいっぱいとなることができた。キャップは犬山市国際交流協会へ届け、ポリオワクチンを海外に送る活動に役立てることにした。初めての取り組みということでやや不安でもあったが、夏休み後ということもあり大変多くのキャップが集まりうれしい悲鳴をあげることとなった。第2回目の10月は3袋集まり、子どもたちが暑い中汗をかきながら登校し、自慢げにキャップを袋に入れてくれる様子やはにかみながらあいさつしてくれる姿はなんとも嬉しく、こちらが笑顔になることができた。役員と委員が協力して活動することで、お互いのよいコミュニケーションの機会にもなっている。

(4) 楽田地区夏祭りに楽田小学校PTAのブースを出店

楽田地区では毎年、楽田地区コミュニティー推進協議会主催の夏祭りが開催されている。いろいろなイベント、模擬店があり地域のみなさんが楽しみにしている行事のひとつでもある。毎年この模擬店に楽田小学校PTAとして出店し、役員・委員の人たちとで役割分担して、地域の方々と交流の場となっている。地域の諸団体の方々との準備・

片付けなど協力し合い、模擬店で行うゲーム、景品等は今の子どもたちはどんなものに興味があるかを考慮し、また幼児から高学年まで喜んでもらえる企画を役員で考案し、不安半分、期待半分で当日に臨んだ。今年はジュース販売、スーパーボールすくい、輪投げを企画した。ジュースの数、景品の数も不安材料のひとつでした。事前準備が必要な物は天候にも左右されたが、今年



【楽田小PTAブース】

は天候もよく、小さいお子さんを連れた家族、子どもたちで一日中賑わうことができた。期待していた以上の来客数、「PTAのお店ですか」と優しく声を掛けてくださる地域の人たちや子どもたちが楽しく喜ぶ様子を見ながら地域の方々と触れあうことができたことに我々役員や委員も大変満足。収益金はPTA活動資金として学校に寄付しているが、多大な利益を得ることが目的ではなくPTA活動のPR、ふれあい活動の一環として取り組み。だからこそ、PTAの各委員会のご理解がなければできない活動だと実感することができた。

(5) その他支援

他にもいろいろな学校支援がある。各常任委員会の活動でも触れられているが、子どもたちの登下校の安全を守るための“青色防犯パトロール”や子どもたちの学校生活を送るための備品購入としての“ベルマーク収集”などがある。また、PTA全体として行う支援として運動会の支援もあげられる。最近の運動会の時期は大変暑い中なので、児童用のテント設置のためのお手伝いも行っている。楽田地区の小学校の運動会は地域と一体となって取り組む運動会。名称も「楽田地区ふれあい運動会」として開催されている。PTA全体として運動会の準備、片付け、当日の活動を地域の方々と共に、テントの設置（児童席など20張）や各係の役割を一丸となって取り組んでいる。

4 おわりに

各委員会・役員会での幅広い活動は、子どもたちの学校生活の様々な場面で子どもたちの学校生活を幅広く支援している。どの活動も、「子どもたちの豊かな育ちと学びのために」という温かな応援のメッセージである。また、学校の運営は、教師と子どもの縦一本のつながりだけではなく、保護者や地域の方々にも子どもたちの支援の輪に加わり、みんなで織り上げる1枚の大きな布のようなものであると考える。

また、最近では楽田小学校区も地域や親同士でのつながりが薄くなり、子育てが難しくなっているので、PTA活動を通して得られる、先生方や他の保護者の方々とのコミュニケーションは大変貴重なものであるということを実際に知ることができた。